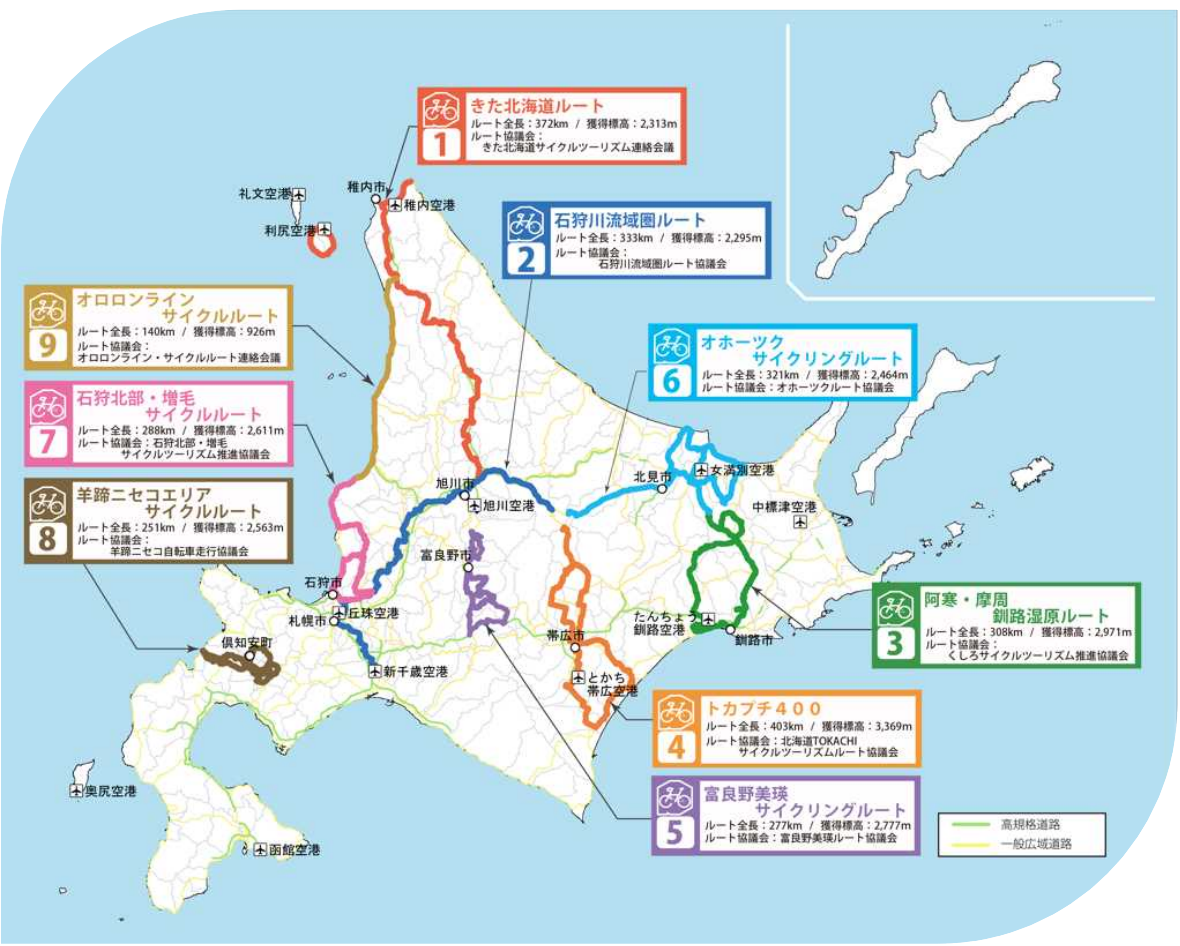




ベスト・サイクリングプロジェクト 2023

最終審査 プレゼンテーション



エントリープロジェクト 最終審査プレゼンテーション

No.1, TEPPEN-RIDE(てっぺんライド)の開催

～きた北海道サイクルツーリズム連絡会議～

No.6, ゲートウェイ機能を意識した道の駅整備

～北海道TOKACHIサイクルツーリズムルート協議会～

No.13, シェア・ザ・ロードの啓発(自転車-大型車走行実験)

～羊蹄ニセコ自転車走行協議会(YNCA)～

プロジェクト名称 **TEPPEN-RIDE (てっぺんライド) の開催**

ルート協議会名称 **きた北海道サイクルツーリズム連絡会議**

(1)プロジェクト概要

①活動目的・目標

きた北海道の内陸部がサイクルツーリズムの適地であるというイメージ付け・認知度向上を目的とし、旭川から宗谷岬までのシンボリックなイベントを開始。きた北海道サイクルツーリズム連絡会議の構成員が連携し、旭川～宗谷岬までを自転車で走るロングランイベントとして実施。

②活動期間 2017年から開始し、2023年で6回目 ※コロナ禍で2021年は中止

③活動場所

旭川から宗谷岬までの「きた北海道ルート」全体で実施。

2023年度 実施概要

- 実施日
2023年9月21日(木)～24日(日)
- 参加者
7名(道外1名、道内6名)
＜参加者の声＞
 - 手荷物も休憩も宿も気にせずに行けるのが、とても良い。
 - 毎朝の出発前には愛車のメンテナンスがされていて、安心して心地よく走れて有難い。
 - この内容は、海外へ確実に売れる商品。



(3)PRポイント

①創意工夫した点

- ・地元ガイドによる道案内や、3日間メカニック車両が帯同するので途中のメカトラブルにも即対応できるなど、安心のサポート体制を構築。
- ・シーニックバイウェイ活動団体がサポートしているので、シーニックカフェへの立ち寄りや、地域のおいしい「食」でのおもてなし、地元の「人とのふれあい」など、ここでしか体験できないイベントとなっている。
- ・2022年は襟裳岬から旭川駅までのサイクルイベント「TONGARI-RODE-RIDE」(主催：北海道サイクリング協会等)と連続した日程とし、両イベントに参加することで北海道を縦断できるようにイベント連携を行った。



エイド休憩や懇親会での地元食材提供

帯同メカニックやサイクルバスによるイベントサポート

地域で資格を有しているサイクリストがガイドを担う等、旅の醍醐味である「人とのふれあい」も楽しい。

②苦勞のあった点

- ・参加者の募集の他、実施当初はツーリズムとしての楽しみやガイド、サポート等、試行錯誤であったが、今は円滑に実施できるようになった。

③活動による効果

- ・本イベントにより、きた北海道エリアのサイクルツーリズムの魅力を広くPRすることが出来るとともに、イベント実施により地域の連携が強化された。

④今後の課題・活動予定

- ・本イベントを継続的に実施し、きた北海道のサイクルツーリズムをブランド化を図り、国内外からストレスなくセルフガイドによるツーリズムが楽しめる環境整備を目指す。

(2)プロジェクト活動体制

主催

きた北海道サイクルツーリズム連絡会議

共催

天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議/宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議/(一社)シーニックバイウェイ支援センター

後援

旭川開発建設部/稚内開発建設部

協力

北海道サイクリング協会

ツアー主催

北日本観光株式会社

プロジェクト名称 **ゲートウェイ機能を意識した道の駅整備**

ルート協議会名称 **北海道TOKACHIサイクルツーリズムルート協議会**

(1)プロジェクト概要

①活動目的・目標

- ・道の駅おとふけ（愛称：なつぞらのふる里）は、令和4年4月に道東自動車道音更帯広ICに近接地に移転オープンすることとなった。
- ・道の駅移転先は十勝の主要な交通結節点に位置し、令和3年5月にナショナルサイクルルート「トカプチ400」に指定されたことから、サイクルルートとしての中継地点、発着地点としての機能を有する施設として、サイクリストへの休憩サービスの向上を図った道の駅整備を実施した。

②具体的な活動内容

- ・多様な交通手段に対応したゲートウェイ機能（主要アクセスポイントとなる、空港、鉄道駅、都市間とを結ぶパークアンドライド機能）として道の駅内にバス停留所を整備し、併せて必要な機能として、レンタサイクル、必要な観光情報、タイヤチューブ等の購入、ロッカー、空気入れ等の工具の貸し出しも可能となっている。

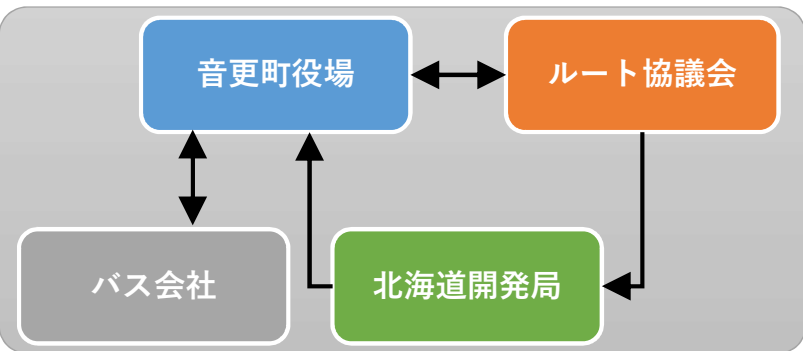
③活動期間

- ・道の駅整備期間：R2.6工事開始～R3.12工事完成
- ・NCR指定：R3.5『トカプチ400』

④活動場所

- ・道の駅おとふけ（愛称：なつぞらのふる里）

(2)プロジェクト活動体制



(3)PRポイント

①創意工夫した点

- ・元々道の駅基本計画策定時に交通結節点を意識した整備を計画していたが、ゲートウェイ機能を見越して自転車のメンテナンススペースを設置するなどサイクリストの受入環境に特化した道の駅整備を心がけた。

②苦労のあった点

- ・ゲートウェイ機能の必須要件となるレンタサイクル事業者を取り込むことに時間を要した。

③活動による効果

- ・サイクリストを含む幅広い層の誘客が実現し、道の駅の来場者数は開業5ヶ月で100万人、開業1年半で、200万人を達成した。

④今後の課題・活動予定

- ・音更町の自転車活用推進計画（R5.9策定予定）に基づき、自転車ネットワーク計画にも道の駅おとふけを組み込みながら、更なる利用者拡充を狙いたい。

▼交通結節点（パークアンドライド）



▲メンテナンススペース



◀サイクル自動販売機

プロジェクト名称 シェア・ザ・ロードの啓発（自転車-大型車走行実験）

ルート協議会名称 羊蹄ニセコ自転車走行協議会（YNCA）

(1) プロジェクト概要

① 活動目的・目標

- 自動車ドライバーとサイクリストが互いに交通ルールを守り、道路を安全に共有する、シェア・ザ・ロードの意識を醸成し、サイクルツーリズムの推進を図る。

② 具体的な活動内容

- 道の駅等でのポスター掲示による啓発。
- サイクリストと大型車ドライバーが互いの走行環境を体験する走行実験の開催。
(実験・体験内容)
- 大型車が自転車を追い抜く際の圧迫感や風圧を大型車ドライバーが体験。
- 大型車の死角箇所や内輪差、オーバーハングを可視化してサイクリストが確認。



③ 活動期間

- ポスター啓発：令和4年度～
- 自転車-大型車走行実験：令和5年8月9日(水)

④ 活動場所

- ポスター掲示場所：道の駅等
- 実験場所：寒地土木研究所 苫小牧試験道路

(3) PRポイント

① 創意工夫した点

- ドライバーやサイクリストに単に安全走行をお願いするのではなく、互いの走行環境を体験する場を提供し、参加者の共感や理解を得ながら意識の醸成を図った点。

② 苦労のあった点

- 多くの関係機関の協力を得て実施した実験のため、参加者・車両が多く（計70人、12台）、当日の運営や各自の動きの調整に苦労した。また実験会場内での事故防止のため安全施設設置や動線の周知を徹底した。

③ 活動による効果

- サイクリスト目線、ドライバー目線の相互の走行環境やシェア・ザ・ロードの意識の必要性について理解を深めることが出来た。

④ 今後の課題・活動予定

- 実験結果等をもとに、シェア・ザ・ロードの啓発活動や各関係機関での安全講習の場で活用予定。



(2) プロジェクト活動体制

